



S.Setoguchi

THE HANSHIN DAISHOTEN

第72回 阪神大賞典 (GII)

1 着 2 着 3 着 4 着 5 着
本 賞 67,000,000円 27,000,000円 17,000,000円 10,000,000円 6,700,000円
付加賞 1,050,000円 300,000円 150,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

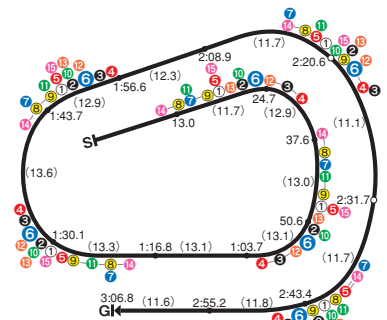
4歳以上、除未出走馬および未勝利馬

負担重量 4歳56^{kg}、5歳以上57^{kg}、牝馬2^{kg}減、2023.3.18以降G I競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2^{kg}増、
牝馬限定G I競走またはG II競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1^{kg}増、2023.3.17以前のG I競走(牝馬限定
競走を除く)1着馬1^{kg}増(ただし2歳時の成績を除く)

2024.3.17 阪神 曇・稍重 芝3000m (国際 指定)

順	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑥	テオーロイヤル	牡 6	57	菱田裕二	3:06.8	3-3-3-3	34.8	458(+6)	3.3(2)	岡田稲男(栗東)	115
2	⑨	ワープスピード	牡 5	57	川田将雅	5	11-11-5-5	35.4	502(-2)	12.8(6)	高木 登(美浦)	109
3	2	プロザホン	牡 5	58	菅原明良	クビ	5-5-5-5	35.3	426(±0)	3.2(1)	吉岡辰弥(栗東)	111
4	①	ブリュムドール	牝 6	55	和田竜二	1	8-8-10-7	35.3	474(-8)	20.9(7)	奥村 豊(栗東)	104
5	⑪	ゴールデンスナップ	牝 4	54	浜中 俊	1 ¼	12-11-11-11	35.3	452(-4)	30.1(8)	田中克典(栗東)	
6	⑩	サヴォーナ	牡 4	56	池添謙一	¾	5-5-8-7	35.6	536(+2)	5.5(3)	中竹和也(栗東)	
7	⑫	ディーボンド	牡 5	57	岩田望来	ハナ	3-3-3-3	36.1	510(+10)	9.0(5)	大久保龍志(栗東)	
8	⑧	メイショウブレゲ	牡 5	57	酒井 学	¾	13-13-13-11	35.4	474(±0)	52.5(10)	本田 優(栗東)	
9	4	ジャンカズマ	牡 6	57	小沢大仁	ハナ	1-1-2-1	36.5	494(+2)	161.2(9)	小栗 実(栗東)	
10	⑬	ショウナンバシット	牡 4	56	M.テムロ	3	8-8-8-7	36.2	498(-2)	67.5(1)	須貝尚介(栗東)	
11	⑬	シルヴァンソニック	牡 8	57	武 豊	1 ½	5-5-5-7	36.7	454(-8)	8.6(4)	池江泰寿(栗東)	
12	③	ディアスティマ	牡 7	57	B.L.ガバ	クビ	2-2-1-2	37.2	496(-4)	32.0(9)	高野友和(栗東)	
13	⑤	ユーキャンスマイル	牡 9	57	荻野琢真	3 ½	10-8-11-13	36.7	518(±0)	154.8(12)	友道康夫(栗東)	
14	7	アナンタンスルフレ	牝 6	57	岡部 誠	2 ½	13-13-14-15	36.3	452(-8)	356.6(14)	角田輝也(夢知)	
15	⑭	ゼーゲン	牝 9	57	松若風馬	クビ	15-15-14-14	36.5	414(+2)	494.2(15)	堀 宣行(美浦)	

単勝⑥330円(2^{kg}) 複勝⑥140円(1^{kg}) ⑨280円(6^{kg}) ⑫160円(2^{kg}) 枠連④-⑤1,190円(7^{kg})
馬連⑥-⑨1,590円(6^{kg}) ワイド⑥-⑨580円(6^{kg}) ②-⑥350円(1^{kg}) ②-⑨780円(9^{kg})
馬単⑥-⑨2,490円(9^{kg}) 3連複②-⑥②1,770円(3^{kg}) 3連単⑥-⑨②10,660円(24^{kg})



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
37.6 - 50.6 - 1:03.7 46.2 - 35.1

アラカルト

- ・菱田裕二騎手は阪神大賞典初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算7勝目
- ・岡田稲男調教師は阪神大賞典初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算8勝目
- ・リオンディーズ産駒はJRA重賞通算6勝目
- ・6歳馬の勝利は19年シャケトラに続く通算9回目
- ・本競走が3月施行となった1987年に関東馬スダホークが勝利して以降、88年から関西馬が37連勝
- ・テオーロイヤルは天皇賞(春)(G I)に優先出走できる

テオーロイヤル T O Royal

牡 鹿毛 2018.3.6生
 北海道浦河町 三嶋牧場生産
 馬主・小笹公也氏 栗東・岡田稲男厩舎
 馬名意味・冠名+王にふさわしい

リオンディーズ 黒鹿毛 2013	キングカメハメハ 鹿毛 2001	Kingmambo マンファスIRE
	シーザリオ 青毛 2002	スペシャルウィーク キロフプリミエールGB
	マンハッタンカフェ 青鹿毛 1998	サンデーサイレンスUSA サトルチェンジIRE
メイショウオウヒ 黒鹿毛 2008	アルペンローズUSA 黒鹿毛 1999	Kris S. Amizette

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA M3×S4
 Mr.Prospector S4×M5 Hail to Reason M5×M5

INTERVIEW

三嶋健一郎氏(三嶋牧場)

期待しながら見ていました

前走はとにかく無事という思いで観戦しましたが、今回は期待しながら見ていました。最後は力強く抜け出して2着に5馬身差。大きな怪我を乗り越えて活躍するテオーロイヤルの姿を見られるのはありがたいことです。菱田騎手も上手に乗ってくれましたし、岡田厩舎の皆さんのおかげだと思います。次走の天皇賞(春)も無事に迎えられることを願っています。



S.Naka

骨折のアクシデントを乗り越え、昨年の秋に戦列へ戻ってきた本馬は、復帰3戦目のダイヤモンドSで隔年制覇を達成。この日は発表以上にぬかるんでいた馬場(稍重)も難なく克服し、重賞連勝を飾った。抜群の持久力を誇る長距離砲が6歳を迎えて本格化。タイトルホルダーの軍門に下った2年前(3着より、一段上の「充実」を印象付けて挑む春の天皇賞が楽しみだ。

父リオンディーズ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央5戦2勝(朝日杯フューチャリティS^G_I、弥生賞^G_{II}2着)、最優秀2歳牡馬、17年から供用
 [(代表産駒)テオーロイヤル(本馬)、リブレザ(兵庫チャンピオンシップJ^h_hⅡ)、インダストリア(ダービー卿チャレンジトロフィー^G_{III})、アナザーリリック(福島牝馬S^G_{III})、ジャスティンロック(京都2歳S^G_{III})、サンライズホーク(かきつばた記念J^h_hⅢ、サマーチャンピオンJ^h_hⅢ、兵庫ゴールドトロフィーJ^h_hⅢ)、ロジリオン(クロッカスS・L、京王杯2歳S^G_{III}2着)、ディオ(東風S・L)、オタルエバー(ラピスラズリS・L、ファルコンS^G_{III}3着、新潟2歳S^G_{III}3着)、ストーリア(関越S^G_{III}、中山牝馬S^G_{III}2着)

母メイショウオウヒ

北海道浦河町 三嶋牧場生産 中央17戦0勝、地方5戦3勝
 トレースイスラ(15 牝父サウスヴィグラスUSA)地方30戦5勝(16 不受胎)

メイショウハリオ(17 牝父パイロUSA)中央18戦6勝(みやこS^G_{III}、マーチS^G_{III}、薫風S、小倉城特別、ジュライS・L2着、フェブラリーS^G_I3着)、地方6戦3勝(帝王賞J^h_hI2回、かしわ記念J^h_hI、東京大賞典^G_I3着) ㊟

テオーロイヤル 本馬(18 牝父リオンディーズ)中央17戦7勝(阪神大賞典^G_{II}、ダイヤモンドS^G_{III}2回、尼崎S、兵庫特別、ステイヤーズS^G_{III}2着、天皇賞(春)^G_I3着) 獲得総賞金294,486,000円

メイショウカミヨシ(19 牝父ルーラーシップ)中央4戦0勝、地方3戦0勝

メイショウオウカ(20 牝父モリス)中央5戦0勝、地方1戦0勝

メイショウソウタ(21 牝父ドレフォンUSA)中央3戦0勝 ㊟

(22 牝父ブリックスアンドモルタルUSA)

(23 牝父レイデオロ)

祖母アルペンローズUSA

北米0勝。03年輸入、17年死亡

メイショウフェヴ(05 牝父フレンチデビュティUSA)中央0勝、地方2勝、メイショウバルボン(マーガレットS^G_{III}3着)、メイショウウチデ(小倉サマージャンプJ^h_h^G_{III}2着、東京ジャンプS J^h_h^G_{III}3着)の母

メイショウオウヒ(08 前出)

メイショウカドマツ(09 牝父ダイワメジャー)中央5勝(早春S、松籟S、精進

湖特別、寒竹賞、アルゼンチン共和国杯^G_{II}2着、ダイヤモンドS^G_{III}3着)

メイショウキョウジ(15 牝父ダイワメジャー)中央3勝(船橋S、巖流島特別、北九州短距離S^G_{III}2着、北九州短距離S^G_{III}3着)、地方2勝 ㊟

5馬身差圧勝で長距離王の座へ前進

昨年は有馬記念の後にひと息入れ、春の天皇賞に向けてここから始動した馬たちが1~3着を独占した阪神大賞典だが、今年の出走馬中、有馬記念組はディープボンドのみ。2021、22年の覇者とはいえ、近走不振(ジャパンC10着、有馬記念15着)の同馬は5番人気にとどまり、ダイヤモンドSで復活の勝利を飾ったテオーロイヤル、日経新春杯1、2着のブローザホーン、サヴォーナと、勢いに優る面々が中心勢力を形成した。なかでもテオーロイヤルは圧倒的な走りを披露、長距離王の座へ向けて大きく前進した。

昨春の目黒記念で2着に逃げ粘ったディアステイマが、1月の万葉S(4着で逃げて新境地を開拓したジャンカズマが。スタートからしばらく雁行した2頭だが、ディアステイマは3コーナーで2番手に控え、主導権争いはスナナリ決着。テオーロイヤルの菱田裕三騎手はスタンド前で徐々に間合いを詰め、ディープボンドと並んで3番手のインに腰を落着ける。ブローザホーンはこれを見る形で中団、サヴォーナはその直後につけ、折り合いに専念しながらレースを運んだ。

ゆったりとした流れに持ち込んだジャンカズマは、残り1000m地点からペースを上げて11秒台のラップを連発。2周目3コーナーではディアステイマも逆襲して先頭に並びかけ、2頭が激しく火花を散らす。とはいえ、楽